

JSL 日本語指導教育研究会通信

(JSL= Japanese as a second language)

令和6年 第1号

発行者 会長 池田 いくみ
日本語指導教育研究会 事務局

○第1回研修会

日時：令和6年4月17日 14:15~16:30

場所：福岡市立百道中学校(対面)

<研修1>中央研修報告

令和5年10月16日(月)から19日(木)までの4日間、三重県総合教育センターで行われた「外国人児童生徒等への日本語指導に係る指導者養成研修」に参加された重枝先生と【管理職コース】で講師を務められた原田先生が研修の報告をされました。

・重枝先生(内浜小学校)

まず、現在実施されている、帰国・外国人児童生徒等教育に関する主な施策や高校での日本語指導について資料をもとにした説明がありました。外国人生徒の進学率や正規雇用の低さなど厳しい実情を、小中学校の指導者である私たちも頭に置いて、日々の指導をしっかりと行っていきたいと気持ちを新たにしました。続いて、DLAについて、DLAの評価基準を個別の指導計画の作成にも活用できることやDLA自体が児童にとっては学習になり、指導者にとっては自身の指導の振り返りにもなるというお話がありました。また、担任や指導員など児童の指導に当たる人たちと共有して、子どもの成長を見守る一助となるよう活用を推進してほしいとのお話もありました。松坂市立第二小学校の日本語教室にて2年生の国語「お手紙」の授業を参観した時の様子の報告もされていました。

他の自治体の参加者との情報交換を通して、環境や地域性、人数、予算など、それぞれの自治体や地域によって状況がちがうので、その地域に合った日本語指導の在り方を考えていくことが求められると感じられたそうです。全国状況に目を向け、新しい情報を得ながら、日々の指導に活かすことが大切だと思いました。

・原田先生(日本語サポートセンター)

原田先生からは、講師として話された内容の紹介がありました。まず、学校に日本語指導対象の子どもが来たらどのように迎えていけばよいのか、というテーマについてでした。39秒間「分からない言葉のシャワー」を浴びる体験を通して、全く分からない言語が飛び交う環境に置かれた子どもの気持ちを考えました。不安を感じている子どもたちに対して、校長先生や担任の先生をはじめとした学校全体で受け入れの雰囲気をつくっていくことや友達との関係をつくっていくことの大切さを話されていました。次にニュース動画をもとに、日本語指導の体制が整っていない地域の実情や福岡市の事例について改めて確認しました。日本語指導を終了した子どもたちのその後の様子も見ることができました。最後に、複数の言語環境で育つことの難しさについてまとめてられていました。今後も、多様な背景をもつ子どもたちに寄り添った指導をしていかなければならないと思いました。

感想

- ・中央研修で新しく学ばれたこと、重要な点、考察などをすっきりまとめて伝えていただき分かりやすかった。
- ・全国の動向、新しい情報、他府県の実情を知ることができ、興味深く聞かせていただいた。機会があれば、いつか私も参加してみたいと思った。
- ・韓国語での授業の体験ができてよかった。改めて子どもの気持ちを考える機会になった。
- ・NHK放送のビデオなど、今後研修をするための参考となった。
- ・資料がとても参考になった。今後、活用させて頂きたい。